

# パナソニック インフォメーションシステムズ株式会社

## 世界6地域をつなぐPanasonicグローバルバックボーンネットワークを刷新。地域間のデータ連携強化など、グループの事業競争力強化に貢献

パナソニックグループのIT戦略を長年にわたって支え続けるパナソニック インフォメーションシステムズ株式会社（以下、パナソニックIS）。同社は、近年におけるIT課題の1つとなっていたグローバルネットワークの刷新に際して、日本タタ・コンサルタンシー・サービス（以下、日本TCS）に支援を要請し、仮想化技術を用いた新たなグローバルバックボーン（新GBB）を構築しました。これにより、共通化されたハイパースケーラー接続による安定したクラウド接続、地域間通信、広帯域化によるデータ連携の強化やセキュリティの厳格化が実現するなど、グループの事業競争力強化につながるさまざまな成果を獲得しています。

### 導入前の課題

- 事業変化に即応できるITインフラ（ネットワーク）の提供
- アプリケーションのマルチクラウド化に対応したネットワークへの移行
- セキュリティのさらなる強化で安心・安全なネットワーク利用を実現

### 導入後の成果

- 仮想化技術を活用したネットワーク構築のリードタイム短縮と変化対応力強化
- 共通のハイパースケーラー接続による最適なクラウド接続・地域間通信の実現
- グローバルでハイリスク通信遮断実施と不正通信の早期検知・遮断でセキュリティのさらなる強化



パナソニック インフォメーションシステムズ株式会社  
インフラソリューション本部  
ネットワークサービス事業部  
ネットワーク部  
部長

福永 猛氏



パナソニック インフォメーションシステムズ株式会社  
インフラソリューション本部  
ネットワークサービス事業部  
ネットワーク部  
グローバルネットワークチーム  
チームリーダー

西山 隆 氏

### クラウド活用の高度化に向けて グローバルバックボーンを全面刷新

創業以来、「物と心が共に豊かな理想の社会」の実現を事業理念に掲げるパナソニックグループでは、2021年5月から独自のDX戦略として「PX（Panasonic Transformation）」を推進しています。このITにとどまらないグループ全体の経営基盤の強化に向けた取り組みをデジタルの知見で支え、大きな貢献を果たしているのがパナソニックISです。

PXの推進で求められるITインフラについて、インフラソリューション本部 ネットワークサービス事業部 ネットワーク部 部長の福永猛氏は次のように話します。

「PXにおけるIT戦略実行の上では、レガシーインフラのモダナイズとクラウド活用の高度化が不可欠です。パナソニックグループでは、すべての事業において地域間・拠点間の安定したデータ連携が求められます。クラウドサービスの利用が拡大してデータ量も増加する中、私たちのグローバルネットワークもこうした変化に追隨していく必要があります。また、セキュリティにおいても従来の境界型防御だけでは限界があり、ゼロトラストへの移行が

避けられない状況です」

しかし、これまでグローバルの6つの地域が独立して運用してきたネットワークは、地域ごとにハイパースケーラー接続が異なり、データ連携においても閉域網接続ではボトルネックが発生するなど、いくつもの課題がありました。

「そこで、これまでのオンプレミス環境とクラウド活用のハイブリッド環境を前提としたネットワークインフラの構築を目指して、仮想化技術を用いてすべての地域を共通のアーキテクチャでつなぐ新たなグローバルバックボーン（新GBB）への移行を決断しました」（福永氏）

### PoCで移行手順をテンプレート化 6地域へのロールアウトを実施

新GBBの構築に向けて、パナソニックISはグローバルプロジェクトで豊富な実績を持ち、短期間で実現性の高いプランを提示した日本TCSをパートナーに指名しました。その理由について、福永氏は次のように説明します。

「評価のポイントは、最初に支援いただいたキャリア選定のRFI作成で高い成果が得られたことです。新GBBを構築するベンダーの選定においても、クラウド、セキュリティ、仮想化技術

クラウド、セキュリティ、仮想化技術と  
いった広範なテクノロジーの知見、グ  
ローバルネットワークの設計・導入の高  
度なケイパビリティなど、日本TCSは私  
たちが求めるパートナーの要件を十分  
に満たしていました

パナソニックインフォメーションシステムズ株式会社  
福永 猛氏

といった広範なテクノロジーの知見、またグ  
ローバルネットワークの設計・導入の高度なケ  
イパビリティを備えた日本TCSは、私たちが求  
める要件を十分に満たしていました(福永氏)  
2022年4月にスタートしたプロジェクトでは、  
まず日本とEUでPoC(概念実証)を実施し、日  
本で先行稼働を開始。その後は、中国、欧州  
(ドイツ)、米州、ISAMEA(インド、南アジア、  
中東、アフリカ)、APAC(シンガポール)でネッ  
トワーク基盤の切り替えを順次行い、2024年  
3月末までに完了しています。

PoCのフェーズでは、欧州をモデルケースとし  
て多くの課題を抽出して解決した上で、移行  
手順をテンプレート化。他の地域へのロール  
アウトでは、日本TCSも交えたチームで地域  
の状況を考慮した展開を進めていきました。  
ISAMEAの切り替えでは、スケジュールの延長  
寸前まで追い込まれる状況も発生しましたが、  
プロジェクトメンバーのチームワークで何とか  
乗り切ることができたといいます。インフラソ  
リューション本部 ネットワークサービス事業部  
ネットワーク部 グローバルネットワークチーム  
チームリーダーの西山隆氏は「ISAMEA地域の

まとめ役だったインドの現地法人に十分な体  
制がなかったことが一因ではありますが、日本  
TCSさんの支援でこうした点を補えたことは成  
功要因の1つです」と振り返ります。

### グローバルの拠点を横断した 日本TCSのプロジェクト推進力

構想段階におけるアセスメントおよびキャリ  
ア選定の段階における日本TCSの支援につい  
て、福永氏は次のように評価します。

「構想段階では新GBBに最適なアーキテク  
チャを提案いただいたほか、キャリア選定の  
RFI作成でもパナソニック視点でわかりやすい  
資料をまとめていただけたことで、手戻りも少  
なく進めることができました」

これに対して、日本TCSのコンサルタントであ  
る竹内修は「パナソニックIS様から明確な指  
針、方向性を示していただけたことで、プロ  
ジェクトの正しい道筋を見いだすことができ  
ました」と話します。

またPoCやロールアウトの支援についても、  
西山氏は「短期間のPoCで多くの課題を抽出  
し、移行手順をテンプレート化できたことには  
大きな意味がありました。ロールアウトでは  
的確なコミュニケーションで地域の担当者か  
ら情報を引き出し、6地域すべての切り替えに  
おいて障害を発生させることなく安全・確実  
に移行ができました。これはTCSさん、各地域  
を交えた綿密な移行計画策定と事前テスト、  
切替前レビュー実施など周到な準備があつて  
こそだと思います」と評価しています。

この実行フェーズのプロジェクトマネージャーで  
ある日本TCSの富永洋志からは「休日や夜間が  
多いネットワークの切り替え作業でも、各地域で  
多大なご協力をいただき、無事に移行すること  
ができました」という声が寄せられています。

### 広帯域化によるデータ連携の強化など 事業競争力を高めるための基盤整備

2024年5月末現在、新GBBは旧基盤から新基  
盤への切り替え、旧基盤の撤収が完了した段  
階ですが、すでに具体的な成果が生まれ始め  
ています。

「従来と比較してバックボーン(総帯域)が3.2  
倍に拡張されたことで、地域をまたいだサブ  
ライチェーンでの膨大なデータ連携は強化さ  
れています。また、仮想化によってハードウェ  
アを調達する必要がなくなり、4～5カ月を要  
していたネットワーク新設のリードタイムは1  
カ月程度に短縮される見込みです(西山氏)  
セキュリティにおいても、地域拠点と新GBB  
の接続にファイアウォール、IDS/IPSを実装し、  
ハイリスク通信の遮断実施やシグネチャーに  
よる不正通信の検知・遮断、さらには各地域  
でセキュリティインシデント発生時の緊急全  
遮断ができるようになりました。

今後の継続課題としては、コストの最適化と  
運用の効率化が挙げられます。この点につい  
ては、TCSのインドのオフショアリソースを活  
用して一元的な運用体制へ移行し、合理化を  
進めていく考えです。

さらに、一部の地域で運用しているSD-WAN  
ネットワークの運用集約のほか、ITSMツールの  
活用やプロセス統合を通じて運用品質のさ  
らなる強化にも取り組んでいく計画です。

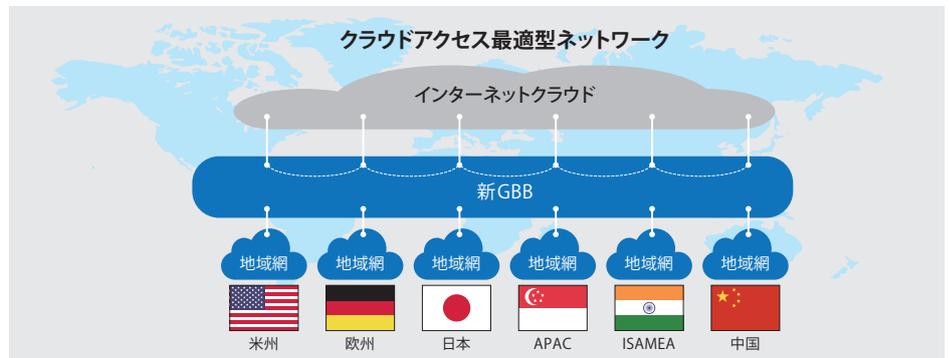
近い将来においても「クラウド活用の高度化、  
自動化・AIなどの最新テクノロジーによって、  
パナソニックグループの事業競争力の強化に  
ますます貢献していきたい」と展望を語る福  
永氏。こうしたパナソニックISの取り組みにお  
いて、世界最先端のデジタルサービスの知見  
を持つ日本TCSとのパートナーシップは、ま  
す大きな役割を果たしていくはずだ。

お客さまプロフィール

## Panasonic

パナソニック インフォメーションシステムズ株式会社  
設立：1999年  
本社所在地：大阪府大阪市/東京都中央区  
資本金：10億4,000万円  
売上高：1,363億600万円(2024年3月)  
事業内容：情報サービス(パナソニックグループの  
IT戦略をグローバルで支援)

<https://is-c.panasonic.co.jp/>



※本事例の内容は2024年7月現在のものです。記載されている会社名・サービス名・製品名などは、各社の商標または登録商標です。

日本タタ・コンサルタンシー・サービス株式会社  
(Tata Consultancy Services Japan)

〒106-0041 東京都港区麻布台一丁目3番1号 麻布台ヒルズ森JPタワー 10階  
TEL. 03-6161-6500



<https://www.tcs.com/jp-ja>